

伊深 まちづくり協議会 だより



第 32 号

2015 (H27) 年 11 月 1 日発行

伊深まち協 HP アドレス : <http://ibukamachi.com>

- ・地域のトピックス 1
- ・特別寄稿「伊深のネコギギの今」 2

地域の トピックス

地域内での最近のトピックスを紹介します

10.8 ほくぶ保育園児がお芋掘り — 下本郷の畑で —

秋空の晴れわたるなか、ほくぶ保育園児がさつまいものお芋掘りを体験しました。これは今年、下本郷の消防詰所東の畑で始まった「下本郷おやじの会」の畑の一角を借りて行ったもので、6月に自分たちで植えたところを園児全員で掘りあげました。園児たちは汚れながらも素手で土をどけ、つるを引っ張ってお芋を掘っていきました。掘った芋はおよそ一輪車一杯あり、11月には「焼き芋」にして楽しむ予定だそうです。



10.17 追洞池の環境調査が行われました — 外来種は認められず —

里地の生態系の保全を図る県の事業として、追洞池の環境調査～「生きものにぎわうため池再生事業」～が実施されました。3年前の調査では、ブラックバスやブルーギルなど多数の外来種が発見されましたが、幸い今回はウシガエル2匹以外に外来種の侵入は認められず、良好な環境が保全されていることが確認されました。ほかにいたのはムツ、タガメ、イモリなどで魚は約5000匹いたそうです。



10.18 4地区合同ふれあいサロンが開かれました

下本郷、関也、大洞、上切の4地区による合同ふれあいサロンが、伊深小学校体育館で開かれました。

3年目を迎える今回は約80人が出席。白木久美さんによる「おしゃべりマジック」と岐経亭勝笑さんの「漫談」を楽しみました。

漫談は軽妙なおしゃべりが楽しく、岐阜から神戸までの鉄道駅名がすらすらと出て来た時には、皆、驚きと感嘆に包まれました。最後には、関也の長谷部さんによるハーモニカの伴奏で、「もみじ」や「ふるさと」などの童謡を合唱しました。



10.24 伊深小で「結コンサート」が開かれました — 「いのちの大切さ」テーマに —

伊深小で『結コンサート』が開かれました。これは朗読指導のいのこ福代さんの縁で実現したもので、胡弓奏者の石田音人さん、フォークバンドの八竜リパティバンド、舞踏家の玉田弘子さんが来校し、胡弓演奏、詩の朗読、歌とダンスなどいずれも「いのちの大切さ」をテーマに、心にひびくプログラムを繰り広げました。集まった約160人の参加者は『ともだちになるために』、『花は咲く』、『ふるさと』などを合唱し楽しい時間を過ごしました。



10.25 伊深地区防災訓練が行われました — 防災用品の活用を試す機会に —

防災意識を高め、自助、共助で災害から身を守ろうと、伊深地区防災訓練が行われました。今年度は自治会ごとに行う1次訓練、伊深地区全体で行う2次訓練に分かれ、1次訓練では消火訓練など自治会の実情に合った訓練、2次訓練では最新の防災関連グッズの展示実演、炊き出し訓練などが行われました。

炊き出し訓練では普通の米を包装食袋「ハイゼックス」を使って炊く実演が行われ、参加者はそれぞれ好みの味付けで試していました。今回の訓練が防災意識の高揚につながるといいですね。



特別寄稿（連載） 「伊深のネコギギの今」

渡辺勝敏（京都大学大学院理学研究科・准教授）

●はじめに 最近話題にのぼることが少なくなっている伊深のネコギギの実態について、ネコギギ研究の第一人者、渡辺准教授から情報をいただきました。不定期になりますが、この紙上で連載します。

第1回 伊深の古くからの住人の紹介（前編）

伊深にお住まいの方なら、「ネコギギ」という名前を聞いたことがある方も多いかもかもしれません。少しお年を召した方なら、「クロザス（クロラス）」のことだといえば、ピンとくるかもしれません。伊深、三和を流れる川浦川にはネコギギがすむことが知られていて、これは今もこの地に誇らしい清流が流れていることを意味しています。



ネコギギはナマズのなかまの淡水魚で、最大でも全長15cmほどの、小さな愛嬌のある姿をした魚です。ネコギギは伊勢湾と三河湾に流れ

込む川にだけ分布していて、三重、岐阜、愛知の東海三県に特産の川魚です。このような特徴ある分布が日本の生物相の由来を考えるうえで学術的に価値の高い種として、1977年には国の天然記念物に地域を定めずに指定されています。ところが、高度成長期以降、川の環境の変化にともなってネコギギは急速に姿を消し、環境省のレッドデータブックでは、絶滅危惧IB類（上から2つ目の絶滅危険レベル）にランクされています。

